

ゲートボール普及活動事業 (R3～R6)

～挑戦の流儀～ 発祥の地 芽室町

ゲートボールの再生に向けた挑戦の流儀は、本町発祥のスポーツとして活動しやすい環境を安定的に整備すること、及び多様な普及活動を加速させること、並びに各種大会や交流機会の充実に向けた対策を集中的に実施することです。

これらの対策を実施するにあたり、町が主導的な役割を果たすほか、関係機関、団体と認識を共有し、ゲートボールの灯を絶やさず再燃させることを目指します。

【日本ゲートボール連合】

1 これからのゲートボール

2019年度「ゲートボール再生プロジェクト」『ゲートボール“Beyond 2024”構想』を本格始動
全世代の多様な人々が、様々な形で参加できる「レジャー&コミュニケーション+競技スポーツ」
ゲートボールの現代的価値（下記①～③）を「小学生」「大学」「ネット&ゲーム」を重要拠点として提供

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| ① 特別な体力や技術が要らない、誰にでも参加できる | 【開かれたチームスポーツ】 |
| ② 小スペース・短時間・少人数でプレーできる | 【コンパクトで気軽なチームスポーツ】 |
| ③ 戦略性が高く、分析・判断・コミュニケーションを駆使する | 【知的でモダンなスポーツ】 |

【発祥の地芽室町】

2 ゲートボールの環境づくりと普及活動

(1) 活動しやすい環境づくり

1) 健康プラザ及び南公園運動広場

- ① 使用料免除
- ② 屋内外コート確保と定期メンテナンス

2) 各種大会出場助成の充実

- ① 全国大会出場助成の拡大

3) 生涯にわたり活動できる拠点整備

- ① 総合型地域スポーツクラブ設立に向けた調査・研究

(2) 普及の基礎づくり

1) 学童期の体験

- ① 町内すべての児童にゲートボール体験
小学校低学年での体験学習を継続
- ② レクリエーション、祭り、イベント等での体験機会の確保

2) 小中高生への競技振興

- ① 少年団活動への継続的支援
- ② 中高生への課外活動アプローチ

3) いわゆる現役世代の取組み

- ① 町職員の普及活動への参画とチームづくり
- ② 町内企業等への普及活動

4) 高齢世代の健康増進

- ① 仲間と共に健康づくり

(3) 交流機会の仕掛け

1) 初心者向け体験機会の充実

- ① レベル設定によるステップアップ
- ② 多様なローカルルール設計で楽しみ方拡大

2) 町内外の交流機会

- ① 中高生交流会（学校対抗、定期戦）
- ② 社会人チーム、職場チームの交流会
- ③ 高齢者の健康づくり交流会
- ④ 3世代チームによる交流会
- ⑤ 十勝発祥スポーツ交流会

3) 意見交換会の実施

- ① 愛好者の裾野を広げるには
- ② 衰退するスポーツを復活させるには
- ③ 既成概念に捉われないアイデアとは

(4) マナーアップ運動の展開

1) ルールとマナーの周知

- ① チームスポーツの魅力
- ② ルールを正しく楽しむ
- ③ 心遣いとコミュニケーション

3 関係機関、団体との連携強化

- (1) 日本ゲートボール連合が掲げた「ゲートボール再生プロジェクト」の様々な取組みに対して、北海道ゲートボール連合等と連携し、発祥の地として積極的に参画します。
- (2) 芽室町ゲートボール協会、芽室町ゲートボール推進協議会との連携を更に強化するため、それぞれが担う役割の明確化と協力体制を再構築します。
- (3) その他の関係機関、団体との連携については、発祥の地のスポーツを推進する立場での協力関係を維持します。

4 発祥の地杯全国ゲートボール大会

大会の基本的な考え方は、令和3年度から「親善的な大会を基調にしながら、より競技性の高い大会とすることでスポーツとしてのゲートボールの魅力を高め、子ども達も出場を目指す大会とする」としています。

大会運営においては、競技としてのゲートボール振興であると同時に、本町発祥のスポーツであるという貴重な資源を最大限考慮した内容とします。

今後、この大会が目指すべき姿を関係機関、団体等との協議により創り上げていくこととします。

5 目標年度に目指す姿

(1) 町内の競技人口(ゲートボール協会員)

H28年度(5年前)	R1年度(基準年度)	R6年度(目標年度)
197人	159人	200人

※ 5年前の水準へ

(2) 町内の大会・交流会等参加者数

H28年度(5年前)	R1年度(基準年度)	R6年度(目標年度)
1,524人	1,353人	1,624人

※ 基準年度の2割増

(3) 初心者教室の参加者数

H28年度(5年前)	R1年度(基準年度)	R6年度(目標年度)
16人	41人	50人

※ 基準年度の2割増

(4) 高校生以下の初心者が体験できる機会

H28年度(5年前)	R1年度(基準年度)	R6年度(目標年度)
66回	32回	64回

※ 基準年度の2倍

※ 目標年度には、学校や職場対抗等の交流会が実現していること。